

# センリョウ立枯れ症の原因病害である 疫病の簡易診断

農業総合センター鹿島地帯特産指導所

センリョウはお正月の縁起物であり、安定した需要がある品目です。東京都中央卸売市場における茨城県産のシェアは48%（金額ベース）と全国第1位です（令和4年）。一方、近年、産地の一部で生育不良が問題となっています。そこで、当所では、生育不良となる立枯れ症の原因を特定するとともに、現地や普及センターが実施できる簡易診断法について検討を行いました。その結果、立枯れ症の主要な原因は疫病であり、病徴観察と市販の抗原検査キットを用いることで、迅速に診断・対処できることを明らかにしました。

## センリョウ立枯れ症の原因菌

近年、センリョウでは立枯れ症が広く発生しており、問題となっています（図1）。立枯れ症の原因を明らかにするため、現地圃場の立枯れ症株に感染している病原菌を調査した結果、6割以上の株から疫病菌が分離されたことから、主要な原因は「センリョウ疫病」であることが明らかとなりました（図2）。



図1 センリョウ立枯れ症の発生の様子（矢印が被害株）

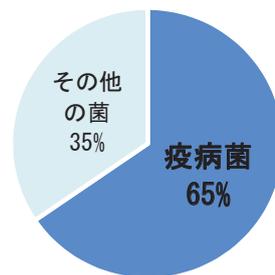


図2 立枯れ症株に感染している病原菌の種類（55株調査）

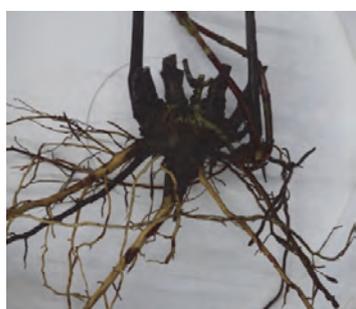


図3 センリョウ疫病の特徴  
（左）萎れ症状 （右）地際及び根の黒変

## センリョウ疫病の特徴

センリョウ疫病は、株から4～5本伸びている枝のうち1～2本が「萎れる」こと（図3左）、「株元（地際）や根が黒変」していることが特徴です（図3右）。その後、症状が進むと株全体が枯死します。

こういった症状（病徴）は、現地ほ場では3月頃から認められ、5月頃に発生が最も多くなります。

## センリョウ疫病の簡易診断方法

センリョウ疫病的診断には、病徴観察に加え、市販の疫病菌用抗原検査キットを活用することで簡易かつ迅速に診断できます。

診断は、病徴が認められる株の地際部分を細かく切り取り、検査キットに供試します。市販のキットを使用するので、どこでも誰でも約10分で診断することが可能です。

疫病菌は、感染した株から周囲の株へ雨水で伝染していくため、本成果を活用した被害株の早期発見や抜き取りは疫病の被害のまん延防止、生産の安定化につながります。

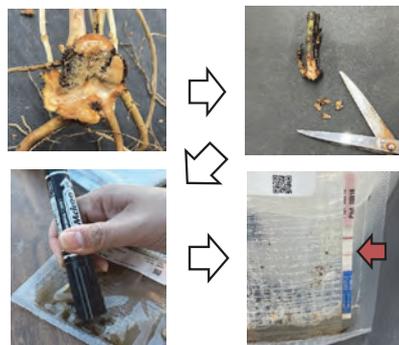


図4 キットを活用した簡易診断手順

注）診断は疫病菌の地際部分を細かく切り取り、緩衝液ですり潰し、キットの試験紙で診断する。赤矢印は陽性反応バンド。